

編集後記 割り切れない12月



アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com

僕はケーキやピザを公平に切り分けるのがとても苦手。(>_<) それぞれの大きさだけではなく、上に乗っかっているイチゴやチョコの数や大きさ等考えると、たぶんどんな切り方をしても100%「公平」というのは難しいんじゃないかって思ってしまう。それでも、人間は昔から「公平」にこだわっていたようです。それは、健全な社会を維持するには「公平」が大事だと知っていたからです。



12月の「12」という数字は、人類にとって特別な数字です。時計が12時で一周したり、テレビのリモコンが12までだったり、ピアノも1オクターブが12の鍵盤となっていたりします。鉛筆やビール瓶は1ダース12本がセット、長さの単位は1フィートが12インチという単位になっています。イエス・キリストの弟子は「十二使徒」。薬師如来の眷属には十二神将。聖徳太子が定めた冠位は「十二階」。それに英語の数のカウント、12までは固有の名前 (Twelve) がありますが、13から先は呼び方が少し雑 (笑) になりますよね。(^_^;) 古今東西、「12」がワンセットになっているのは何故でしょう？ 実は、「チョコちゃんに叱られる」で前にやってみました。(^^^)



「12」という数字の考え方は、狩猟生活時代から仲間同士で食料や物を分ける際に使われていたそうです。例えば「10」の場合は2人が5人でしかきれいに分けることができませんが、12であれば2、3、4、6と多くの場合でキレイに分けることができます。相田みつをさんが言うところの「奪い合えば足らぬ、分け合えば余る」こそ、健全な社会。「12」という数字そのものが、公平に分けあうためのベースになる考え方だったのです。



「103万円の壁」の引き上げについての議論が本格化しています。

でも本当に深刻なのは130万円 (50人超企業は106万円) という社会保険料を巡る壁の問題です。厚生年金加入者の配偶者で年収130万円未満であれば、健康保険は配偶者の加入する健康保険の扶養家族となるので保険料を払う必要がありません。また国民年金では第3号被保険者となり、将来的な基礎年金に加算されます。税金や社会保険料はみんなで負担するという基本原則からすると、今の時代、これが本当に公平な社会といえるのかという疑念を拭いきれません。とはいえ、一方で人手不足という現実もあります。(+_+)

2024年までの時限措置として「一時的に130万円超えても事業主の証明により被扶養者認定ができる」となっていますが、法律や制度はその時代を映す社会の鏡。来年はまた何らかの制度改正があると思われます。

接戦と予想されていたアメリカの大統領選挙はトランプ氏の圧勝。けちょんけちょんに世間から非難を浴びて知事職を追われたはずの兵庫県知事が再選。もうなにがなんやら、先を読むのがつづく難しいご時世です。(-_-)



時代は、分配することを前提とした12進法から、経済活動を優先し計算しやすい10進法に移行しました。そのせいでもないでしょうが、割り切れないことが増えて、現代はあたかも「万華鏡」に映る絵のように、正解がない世の中のように映ります。だからこそ、様々な視点を持つ人の意見を聞いて知恵を掛け合わせていってチームとして乗り切る、それが先の見えない今の時代を生き残るポイントになるのではないのでしょうか。

万華鏡作家の辻輝子さんは、「人生は万華鏡」という言葉を遺されました。

「人生はこの万華鏡のように、偶然の組み合わせでどうにでもなりうる、くると動かせばまた違う局面が見えてくること、どんな場面もそれぞれに美しく輝くことを知って欲しいのです。」

(辻輝子さんのホームページより <https://sendaikaleidoscope.com/terukotsuji.html>)

一歳になったばかりの孫がもう少し大きくなったら、クリスマスに万華鏡を買ってあげて、この言葉を教えてあげたいなって思っています。目に映る景色がどんなに変わっても強く生きてほしいと願いを込めてネ。^--^☆

